



Little Diamonds

ジュニアユースU-15県クラブ大会優勝！ 中2生主体のチームで今季2つ目の県V



ジュニアユースは11月23日、リコー東松山研修センターで、第14回県クラブユース(U-15)大会決勝に臨み、クマガヤSCに2-0で勝って優勝を決めた。

同大会には中学2年生主体で臨んだが、準々決勝で武南Jに一時0-2と引き離されながら追いつきPK勝ちするなどして自信を深めた。約1カ月の間が空いた準決勝(11月20日)では坂戸ディプロマツに3-0と快勝、決勝でもパワーのあるクマガヤSCを2-0で下し、高円宮杯県予選に続き、ジュニアユース今季2つ目の県大会優勝をもたらした。

U-15県クラブ選手権大会で優勝したメンバー(11/23/リコー東松山研修センター)

U-14大会はベスト4、 U-13はベスト8

一方、同時期に行われた第5回県クラブユース(U-13)大会では、準々決勝でクマガヤSCに敗れベスト8。また第1回県クラブユース(U-14)大会では、準決勝で武南Jに敗れ、ベスト4に終わった。

このうち11月21日(日)所沢北中運動場で行われたU-14大会準決勝・武南J戦(=写真)では、いずれもミス絡みで2点を失い、後半15分過ぎから主導権を握って反撃したが、武南の守備を崩せず、ロスタイムに山田直輝が1点を返したに留まった。



後半ロスタイム、山田直輝のゴールで1点を返した(11/21/武南J戦)=U-14大会



後半21分、高橋峻希がドリブルで持ち込みチャンスを作る(11/21/武南J戦)=U-14大会



後半14分、岸幸太郎がシュートを放つ(11/21/武南J戦)=U-14大会



後半5分、武南のロングクロスをキャッチするGK高山直人(11/21/武南J戦)=U-14大会



後半15分、田中智紀がゴール前に切れ込む(11/21/武南J戦)=U-14大会

トップチーム目指して技を磨いてください



浦和レッドダイヤモンズ監督
ギド・ブッフバルト

レッズユース、ジュニアユースのみなさん。こんにちは。
みなさんご存知の通り、浦和レッズのトップチームは、Jリーグの2ndステージで優勝しました。
我々のチームは非常にバランス良く構成されており、たとえば大山俊輔選手などはユース所属ですし、横山拓也選手は高校を出たばかりです。こういう若い選手たちと経験豊富な選手たちでチームが構成されているのです。今のレッズは若い年代の選手の発掘に力を注いでいますし、私はその中からなるべく多くの方が、我々のトップチームに上がって来てほしいと思います。
みなさんの年代は1歳ごとにやるべき課題は違いますが、共通して言えることはみなさんを教えている指導者の経験をしっかり受け取って、それを実践して行ってほしいということです。今のレッズは練習場所も、指導者も、用具も、素晴らしくそろっています。あとはみなさん自身にかかっています。どうしてもトップチームに上がるんだという強い気持ちを持って、練習して行ってください。練習では特に反復練習が大事です。パーフェクトな人間などいません。常に初心に戻ってボールテクニックを磨き、上を目指してください。

Reds on Record in Jr.Youth

大会名はResult参照			B	B	B	C	C	D	E	D	E
試合日(結果)			10/30	10/31	11/6	11/13	11/14	11/20	11/20	11/21	11/23
選手名			2-1	0-5	1-4	1-0	1-3	2-0	3-0	1-2	2-0
飯塚 大地	MF										
岡田 将知	MF										
岡本 翔平	FW				1						
高垣 大樹	MF										
高橋 大輝	DF										
田中 貴大	DF										
富居 大樹	GK										
野口 修平	DF										
橋口 弘斗	MF										
3 早船康太郎	GK										
久岡 真生	GK										
平田 祐次郎	DF										
年 廣瀬 和桂	MF										
福島 悠斗	FW	1									
松本 昂大	DF										
三森 翔	MF									1	
矢部 雅明	MF										
山崎 家光	MF										
陸川 哲晃	DF										
渡辺 登太	DF										
長岡 彬	FW										
池西 佑樹	MF										
池田 涼司	DF										
井田 龍応	DF										
岩井 貴裕	DF										
岩井 陸	DF										
岸 幸太郎	FW								2		1
慶徳 優	GK										
田 大志	DF										
2 菅井 順平	DF										
高橋 峻希	MF										
高山 直人	GK										
武富 尚紀	FW								1		
田仲 智紀	MF	1									
永田 拓也	DF										
沼 大輔	MF										
平野 又三	MF										
山田 直輝	MF									1	
藤田 圭介	DF										
和田 祐樹	MF										
池西 希	MF										
石沢 哲也	MF										
大里 康朗	DF										
加瀬 光	DF										
加藤 貴幸	MF										
北見 亮太	DF										
後藤 良平	GK										
齋藤 博	MF										
1 渋谷 将太	MF										1
高瀬 優孝	FW				1	1					
高橋 秀行	DF										
利根川良太	MF										1
根本 和毅	MF										
長谷川 凌	DF										
原 豊寛	GK										
原口 元気	MF										
簗本 啓太	FW										
森田 健介	MF										
山崎 大成	FW										

Action Result

YOUTH

- A: Jユースカップ
第12回Jリーグユース選手権**
(埼玉第3グラウンド、他)
予選リーグ
・10/31 10-1(前半3-0)甲府
・11/7 0-0(前半0-0)横浜M
・11/14 3-2(前半1-1)C大阪
・11/21 6-0(前半1-0)甲府

予選リーグの中で伸びてきた

ユース監督・村松 浩

予選リーグは、初戦の横浜M戦(3-2)と第5戦のC大阪戦がヤマでした。横浜Mは相手のパワーブレイ的なサッカーに押し込まれることが多かったですが、よく耐え守りを守りました。

C大阪は、負ければ後がないという状況でしたので、立ち上がりからガンガン来ました。それに対して前半はチームがバラバラになってしまい1点取られたのですが、ハーフタイムに話をし、後半はまとまりが出ました。同点に追いついて、また勝ち越されるという展開だったのですが、よく辛抱して追いつき逆転できました。前半と後半では内容がまるで違いました。チームとして協調性が出て、お互いに理解しあってサッカーすることが大事だということを学んだようです。

予選リーグを通じて、判断が速くなってきました。個人で何とかするよりチームでやることを選択するようになったと思います。それを実践するには、個々の技術の正確性が要求される訳で、それがないと上にはつながっていきません。またケガ人や出場停止の代わりに出た選手の新しい可能性を感じた6試合でもありました。

決勝トーナメントでは、まず1回戦の相手、三菱養和は伝統的にしっかりつないでくるチームであなどれません。しかし、みんなが今できるプレーをして、いいリズムでできれば結果はついてくると思います。それ以降はみんな力が拮抗しています。今のチームのモチベーションや力を考えれば、磐田や広島とはぜひ対戦したいですね。

JUNIOR YOUTH

- B: 高円宮杯全日本ユース(U-15)
選手権関東大会**
(埼玉第3グラウンド、他)
予選リーグAブロック
・10/30 2-1(前半1-0)三菱養和
・10/31 0-5(前半0-2)柏

- ・11/6 1-4(前半0-2)横浜M追浜
全日本大会出場ならず

- C: 朝日新聞埼玉少年少女スポーツ杯
第5回県クラブユース(U-13)大会**
1回戦
・11/13 1-0(前半0-0)武南 Jr
準々決勝
・11/14 1-3(前半0-2)クマガヤ

- D: 第1回県クラブユース(U-14)
大会**
(新座総合技術高校 G)
準々決勝
・11/20 2-0(前半1-0)草加 Jr
準決勝
・11/21 1-2(前半0-1)武南 Jr

- E: 第14回県クラブユース(U-15)
大会**
(リコー東松山研修センター、他)
準決勝
・11/20 3-0(前半1-0)坂戸ディ
プロマツ
決勝
・11/23 2-0(前半1-0)クマガヤ

常に高いモチベーションで

ジュニアユース監督・名取 篤

3つの大会がほぼ同じ時期にあったんですが、U-15の大会には2年生主体で参加しました。3年生は1-2人だけです。U-14の大会と重なるときは、1年生をU-14に出しました。

U-15の大会では10月の準々決勝で、武南 Jrに0-2から追いついてPK勝ちしたことがずいぶん自信になっていると思います(本紙第3号で詳報)。また準決勝の坂戸ディプロマツ戦は、相手が高円宮杯県予選のベスト4チームなので前半0-0ぐらいでいければ、と思っていたのですが、案外初めから点が取れました。こちらが思い切りいけた、ということもあったのかもかもしれません。

決勝のクマガヤSC戦では、相手の当たりの強さや速さを警戒していましたが、うちのつなぐサッカーがだいぶできたと思います。しかし3年生に対して頑張ったものが、相手によってサッカーが変わってきてしまうのは良くないところ。ほとんど同じメンバーで臨んだU-14大会の準決勝(武南 Jr戦)では負けてしまうのですから。

2年生のレベルは高いと思いますし、誰が出てモチベーションが落ちないくらいになっています。これから相手や場所や環境に左右されず、常に高いモチベーションを持って、自分たちのやりたいことを味方同士で言い合えるようにしていかないと、相手にも負ける可能性があります。

YOUTH INTERVIEW

Jユースカップ優勝を目指して

C大阪戦の後半は良かった

MF 渡部竜二 (高2)

予選リーグで良かったと思う試合は第5戦のC大阪戦で、前半はあまり良くなかったんですが、後半はパスが回るようになって、結果も得点で表われました。初戦の横浜M戦は、ロングボールを高い選手に落とされてそこを拾われる場面が多くて、守備に回る時間が長かったです。

自分は、ボールを持っているときにスルーパスやサイドチェンジが得意です。守備でも相手のコースを読んでカットするのも好きです。

全国優勝の経験がないので、Jユースでぜひ優勝したいです。

(守備的MF)



広島に優勝させない

MF 萩尾勇貴 (高2)

横浜Mが一番強敵でした。FWのマイクの高さとかサイドハーフのドリブルとかが怖くて、攻撃より守備重視になりました。ホームのC大阪戦でFKを直接決めたのはうれしかったですね。けっこう練習していたので、いけるかな、と思っていたんです。

プレーで自信があるのはFKと、人を生かしてワンツーなどで攻めることです。

もう優勝しか見えません。磐田とはクラブユースで戦えなかったのが、対戦したい気持ちが強いですし、広島にJユースまで優勝させる訳にはいきません。

(左ウイングバック)



Jr.YOUTH INTERVIEW

U-15大会優勝を自信に 来季は全国大会へ

体小さくても負けていなかった

DF 池田涼司 (中2)

U-15大会では、初めは1年生にポジション(左サイドバック)を取られてしまい、辛かったこともありましたが、途中出場して自分としてはいいプレーができたと思います。自分は体が小さいですが、それでも負けていなかったことが自信につながります。優勝というのは初めてで、来年に向けても自信になります。今はチーム状態が良いので、それを崩さず全員力で優勝目指していければいいと思います。

U-14大会で武南に負けたときは自分としては最低のプレーだったので、翌日の決勝(U-15)で同じプレーはできないと思って頑張りました。

全員モチベーション高かった

DF 永田拓也 (中2)

U-15大会は、一つ上の学年のチームが相手ということでみんなモチベーションが高く、いいプレーができたと思います。逆にU-14の武南戦では、その前日

Action Schedule

YOUTH

Jユースカップ

第12回Jリーグユース選手権

- ・1回戦
12月12日 三菱養和(13:00・埼玉スタ第2)
- ・2回戦
12月19日 13:30・小机競技場
- ・準決勝
12月23日 11:30・長居第2陸上競技場
- ・決勝
12月26日 13:00・長居スタジアム

Jr.YOUTH

第11回ジュビロ磐田Jユース(U-14)カップ

- ・12月28日~30日
- ・エコパサブG、他

にU-15の大会で坂戸ディプロマツの3年生に勝っていたので、見下していたところがあったと思います。U-14大会は、その前の草加J戦に1年生が出て勝ってくれたのに、それを台無しにしてしまった。U-15の決勝は絶対に勝て、と名取監督からと言われていました。来年は全国につながる大会があるので、それを目標に頑張っていきます。

チャレンジャー精神で臨めた

DF 菅井順平 (中2)

2年生主体でU-15大会に参加して、ここまで来られると正直思っていなかったんですが、3年生が相手ということでチャレンジャーの気持ちで臨めたことがすごく良かったと思います。同学年が相手だと受け身に回ってしまうところがあるので、でも来年はみんな同じ学年になる訳で、県内のチームはみんな「打倒レッズ」で来るとは思いますが、僕たちも全国大会に行きたいので、1戦1戦大事に戦っていきたいと思っています。今のチームは性格的には少しだしらないところがあるんですが(笑)、サッカーになるとお互いに良いところ悪いところ言い合ったりしてやりやすいので、もっとレベルアップすれば全国でも通用すると思います。



PIN SPOT

キャプテンが戻ってきた!

小尾がグラウンドに戻ってきた。

ユースのキャプテン、小尾優也(高3)は今年2月、国体埼玉代表の練習試合中に右ヒザの前十字じん帯を断裂。約8カ月間、治療とリハビリの日々を送り、11月7日、Jユースカップ予選リーグ第4戦の横浜M戦で、公式戦復帰した。

「ちょっと緊張しましたが、やっと帰って来たな、というのが一番うれしかったです。みんな1年間でうまくなって、頑張ってるのかなきゃ、と思いました。」

小尾はジュニアユース時代の中学3年生のとき、キャプテンを務めていた。日本クラブユース(U-15)選手権で優勝した年だ。そして今年の春、ヒザを手術して入院中に、ユースのキャプテンに決まった。

「え!俺でいいのかな?と思いましたけど、選ばれちゃったら頑張るしかないし、早くチームに貢献したいという気持ちでした。」

その後、4月にグラウンドに復帰。リハビリ

Reds on Record in Youth

大会名はResult参照		A	A	A	A
試合日(結果)		10/31	11/7	11/14	11/21
選手名		10-1	0-0	3-2	6-0
3	大山 俊輔 MF				
	川嶋 正之 DF				
	小寺 潤 MF				
	沢口 泉 FW	1			2
	小尾 優也 DF				
	杉原 一憲 GK				
2	中村 祐也 MF				
	西川 優大 FW				
	星野 崇史 DF				
	細井 勇貴 DF				
	武藤 勝利 MF				
	市川雄太郎 FW	2			2
1	宇賀神友弥 MF	1			
	大橋 基史 GK				
	小池 純輝 FW				
	小松 裕志 MF				
	小松 靖和 DF				
	堤 俊輔 DF				
	西澤代志也 MF	1			
	野島 康宏 DF				
	増田 孝輔 MF				
	森 慎太郎 MF				
	山田 純輝 DF				
	吉田 周二 DF				
	渡部 竜二 MF				
	萩尾 勇貴 MF				
一ノ瀬 建 DF					
1	セルビオエスクロ FW	1		2	1
	蛭原 弘貴 FW				
	大池 昂之 GK				
	尾崎 綾 GK				
	金生谷 仁 MF				
	蟹澤 直人 GK				
	川原 拓郎 DF				
	小林 優平 DF				
	佐藤 謙介 MF				1
	鈴木 竜基 FW	4		1	
	田中 宏育 MF				
中山 透 MF					
広瀬 祐太 MF					
村上 裕磨 DF					
村松 勇太 MF					
山田 哲 GK					

左から池田涼司、永田拓也、菅井順平



小尾優也

をしながらチームの世話をする毎日だった。夏のクラブユース(U-18)選手権でも、ドリンクを用意したり、選手に声をかけたりという小尾の姿がJヴィレッジのピッチサイドにあった。

「少しでもチームのためになれば、と思ってました。準決勝で広島に負けたとき、出てもない涙が出ちゃって...。やりたかったですね。高2のときのクラブユース決勝で広島にはボコボコにやられましたから。」

Jユースの決勝トーナメントは、勝ち上がれば決勝で広島と当たる組み合わせだ。大学受験に向けて、フルで練習に来にくくなる小尾だが、チャンスがあれば出場を狙う。

「いい仲間と巡り会えて楽しかったし、いい指導者に会ってこの3年間でずいぶん成長したと思います。大学で4年間しっかりサッカーをやって、4年後プロを目指します。」

※スコアが同点で できないものはPK戦による決着。選手欄の数字の合計がスコアと合わない場合はオウンゴール。

Jユースカップ

予選リーグ1位通過!

最後の全国大会 12日から決勝トーナメント



横浜Mの高さを生かしたパワープレーを封じた(11.7/横浜M戦)

レッズユースは、Jユースカップ第12回Jリーグユース選手権の予選リーグを4勝2分けの成績で終え、Eグループ1位で決勝トーナメント進出を決めた。

第3戦で甲府を10-1という大差で下したレッズは11月7日(日) 埼玉第3グラウンドに横浜Mを迎えた(写真)。初戦、アウェーでは3-1と勝利していたが、相手の高さを生かした攻撃に押される場面もあり、0-0の引き分け。後半は両サイドからの攻撃がよく冴えたが、ゴールを割れなかった。

続く第5戦はアウェーでC大阪と対戦。2度にわたり先行される苦しい展開となったが、2-2から最後はエスクデロが決勝ゴールを挙げた。最終節では甲府に6-0と確実に勝ちを収め、Eグループ1位で予選を通過した。

12月12日(日)から始まる決勝トーナメントでは1回戦で三菱養和SCとの対戦が決まっている。これが今年最後の全国大会。夏の日本クラブユース(U-18)選手権ベスト4 トップアップを目指す。



からさらにス

前半6分、小松靖和が相手にわたるボールをクリアする(11.7/横浜M戦)



前半20分、小池純輝がシュートを放つ(11.7/横浜M戦)



後半10分、市川雄太郎が中へ切れ込み、チャンスを作る(11.7/横浜M戦)

後半43分、セルヒオ・エスクデロがシュートチャンスをうかがう(11.7/横浜M戦)



9ヵ月ぶりに実戦復帰した小尾優也(11.7/横浜M戦)